

★訪米のボルソナロ大統領がC I A本部を訪問＝各紙の報道

◇訪米したボルソナロ大統領は3月18日、C I A本部を訪問した。公式日程にはない訪問だったが、同行している大統領の息子の一人エドワルド・ボルソナロ氏がツイッターで次のように確認した。「いま大統領と閣僚たちとともにC I Aに行くところだ。世界でもっとも尊敬されている情報機関だ。最高レベルの専門家たちと地域の国際関係を話す素晴らしい機会になるだろう」。

(The Hill 3月18日)

◇C I A本部訪問は、これまでブラジルの大統領はだれもしなかった。ボルソナロはまだ自国の情報機関A B I Nも訪問していない。C I Aでは、ベネズエラで進行中の政権転覆（米国はこの企てでブラジルのさらなる支援を求めている）ニカラグアとキューバの政情不安、近づくボリビアの選挙などが話合われたとみられる。

同国のアモリン元外相は「これほどの米国いいなりはない」と批判した。

2013年に米国家安全保障局（NSC）がルゼフ政権の閣僚と石油公社ペトロbrasの幹部を監視していたことが発覚、その際ルゼフ大統領は予定されていた訪米を取りやめた。当時は一議員にすぎなかったボルソナロはその時、監視の事実を否定したうえ、ルゼフ大統領が国内問題から目をそらせるため事件をでっちあげていると主張していた。

2016年にルゼフ大統領が罷免された直後、ボルソナロの盟友であるセルヒョ・エチェゴエン将軍が、ブラジル駐在のC I Aトップと秘密の会合をもったことが明らかとなった。同将軍はブラジルの情報機関トップを務めルゼフ大統領を排除したテメル政権下で大統領安保室長に任命されていた。いまブラジルで最強の権力をもつといわれる。

ボルソナロ大統領のC I A本部訪問には、モロ法相も同行していた。元判事の同法相は、大統領選挙の有力候補だったルラ元大統領に（汚職容疑で）有罪判決を加えて選挙に出馬できなくし、結果ボルソナロ政権誕生に貢献した。その「褒賞」で法相に抜擢された。二人はC I A本部でジーナ・ハスペル長官と会った。ハスペル長官は、9・11後の容疑者追及で、拷問に直接かかわったことが暴露されて2013年に失脚している。

モロ法相は、C I Aのエージェントかなんらかのかたちで米国のために働いていると長年、批判されてきた。決定的とはいえないまでも、この仮説にはいろいろな証拠がある。モロ判事が主導した汚職摘発のラバジェット作戦は、労働党政権の排除につながったが、米財務省のケネス・ブランコ金融犯罪対策局長は米国のN A T Oシンクタンク大西洋評議会の講演で、F B I と米司法省がラバジェット作戦に協力したと公然を誇っている。(Truthdig 3 月 25 日から)